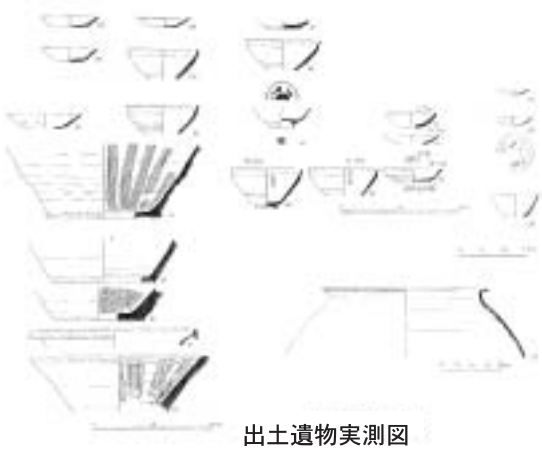
吉武城跡（よしたけ）

吉武城跡は新旭町旭に所在します。五十川城の東方約一km先の平野部に位置することから、五十川城城主吉武壱岐守の出城と伝承されています。

吉武城に関する記録は『木津庄検注帳』応永二九年（一四二二）に吉武募とあります。明治初期の『森村地券取調総絵図』には、吉武城跡の中央部には幅五～六m・全長四〇m程の水路が存在し、その水路は内湖状の湿地帯から琵琶湖に通じるものであったと推察されます。

昭和六〇年から国道一六一号線高島バイパス建設に伴う発掘調査が実施され、区画性のある堀・堰状遺構・掘立柱建物・土坑が検出されました。幅一〇mを測る堀は、主郭推定地である調査区周辺の絵図や地形図と併せると方形郭の周りを巡る濠と推定されています。出土遺物は一六世紀後半の土器・木製品と供に礎石と推定される石材や板碑・五輪塔が出土しています。石材には焼痕が確認され、家屋の焼失が想定されています。元亀四年（一五七三）の信長高島郡攻略時と推定される明智光秀書状には「高島の逢庭三坊の城下まで放火し敵城を三カ所落去した」と記載されており、吉武城の廃城を示唆するものと推察されます。

これまでの調査で見つかっている遺構



出土遺物実測図

吉武城堀跡と石垣

日爪（ひづめ）城跡

日爪城は新旭町饗庭に所在し、饗庭野台地の東端に分岐する支峰上、小字「城山」に位置します。

城の遺構は、標高一九五m付近と二〇七m付近に集中して存在し、ここからは木津庄と西近江路・五十川城や吉武城、さらに琵琶湖が一望できます。

伝承では日爪城はここから一km南に位置する清水山城の出城とも伝えられ、清水山城から望むことができない高島郡北部一円を見渡すことができます。

日爪城跡の遺構の構造的な特徴などは、永禄年間以後の改築を色濃く残すもので、その改築は清水山城の改修と同時期と推定されることから佐々木（高島）越中氏または浅井・朝倉氏の影響を受けたものと推察されます。

日爪城の麓には日爪集落が存在し、その背後にある竹藪と共同墓地（通称ねごや）付近には一〇箇所以上の削平地・櫓台・土塁・掘切等の遺構（南谷遺跡）が存在し、屋敷地または寺坊跡と推測されています。この西端より日爪城への道が通じています。

日爪城縄張り図

土　橋

堀　切